

市民討議会提言進捗管理表（令和5年度実施分）

討議テーマ 『このまちの未来は 私たちが守る』～みんなで考えよう、楽しみながらできる持続可能な取組～

地球温暖化防止に向けた、温室効果ガス実質排出量ゼロを目指した脱炭素の取組（ゼロカーボン）について、積極的に楽しみながらできることを考えよう！

No.	提言		事業名・事業内容	[担当課]	取組
	項目	内容			R6年度
1	市民への参加の促進	ゼロカーボンへの行動につなげるため、市民の取組に対しポイント制度による資源回収ごみ袋の配布を行うなど、市民への参加を促す。	脱炭素チャレンジ事業（新）	環境課	市民一人ひとりが脱炭素につながる行動を考え市全体での気運の高まりによりゼロカーボンにつながる行動を積極的に行われるよう、インセティブを導入した、脱炭素につながる行動をみんなで取り組むものである。
			ごみ減量協力還元事業	環境課	生活系ごみの排出量目標値を達成することができたため、市民への還元策として資源回収袋を配付し、今後さらなる削減に向けた意識啓発を行う。
			乾燥堆肥トイレットペーパー交換事業	環境課	家庭から排出される生ごみの自家処理を促進するため、生ごみを乾燥してできた乾燥堆肥をグラム数に応じてトイレットペーパーに交換する。
			有価資源回収事業	環境課	家庭から排出される空ビン・アルミ缶・スチール缶・紙パック・新聞紙・雑紙・ダンボール・古着等の有価資源は、各自治区・子ども会等の資源回収団体により資源回収を行い、回収量に応じて報償金を支給する。
			はんだ環境パートナーシップ委員への登用（新）	環境課	アイデアを実現できるよう参画する仕組みとして、環境基本計画に係る施策の企画立案を行う「はんだ環境パートナーシップ会議」の委員を参加者に公募し、登用する。
2	子どもへの教育	次世代を担う子どもたちに教育をすることで、ゼロカーボンについて知ってもらう。また、ボランティア体験やごみ処理施設見学ツアー等のイベントを開催して、学ぶ機会を作る。	環境保全標語コンテスト（新）	環境課	地域環境から身近な生活環境まで様々な環境問題や課題に適切に対応していくためには、個々の環境意識を向上させることが必要であるため、在住・在勤・在学の方より作品を募集し、表彰・掲示を行い、環境保全の啓発に活用する。
			市民向け脱炭素啓発事業（新）	環境課	家庭における脱炭素活動の促進や環境意識の向上のため、動画視聴やWEBコンテンツによる啓発を実施する。子育て世代をメインターゲットとし、短い動画や親子で楽しめるコンテンツを整備し、市HPやSNS等でPRすることで、親子時間を活用し脱炭素並びに環境問題について取り組めるよう促す。
			環境学習出前講座	環境課	保育園や小学校、地域団体に環境に関する出前講座を実施し、地域の川や池などを利用して身近な環境について学習する。 メニュー：水生生物調査、水質調査、紙芝居等
			学校指導要領に基づく環境教育	学校教育課	学校指導要領に基づき、環境学習に関する内容がカリキュラムに組み込まれており、以下の例にあるような学年に応じた内容を学習する。 【小学校】 （1年）自然材料によるおもちゃ作りや自然を題材とした絵画（2年）虫取りや野菜を育てる活動（3年）竹炭体験活動（4年）ゆめくりん見学（5年）公害学習（6年）環境に配慮した生活の考察 【中学校】 （1年）SDGsに関わる職業講演会（2年）野外活動（3年）エネルギー学習
			バイオマスガス発電から出た廃ガス・廃熱を利用して栽培したトマトを学校給食へ提供（新）	学校教育課	学校給食の食品残渣を原料の一つとしてしているバイオマスガス発電から出た廃ガス・廃熱を利用して栽培したトマトを学校給食へ提供することで、資源の循環について理解を促進する。

市民討議会提言進捗管理表（令和５年度実施分）

討議テーマ 『このまちの未来は 私たちが守る』～みんなで考えよう、楽しみながらできる持続可能な取組～

地球温暖化防止に向けた、温室効果ガス実質排出量ゼロを目指した脱炭素の取組（ゼロカーボン）について、積極的に楽しみながらできることを考えよう！

No.	提言		事業名・事業内容	[担当課]	取組
	項目	内容			R6年度
3	情報発信や既存の取組の周知	SNSやホームページを利用した節電イベントや半田市のごみの量などの数値の情報発信、既存の半田市の取組みである剪定枝粉碎機の有効活用、バイオマス発電の見学会の実施、資源回収やマイレポはんだ、生ごみ処理機購入補助金などの周知をする。	市民向け脱炭素啓発事業（新）（再掲）	環境課	家庭における脱炭素活動の促進や環境意識の向上のため、動画視聴やWEBコンテンツによる啓発を実施する。子育て世代をメインターゲットとし、短い動画や親子で楽しめるコンテンツを整備し、市HPやSNS等でPRすることで、親子時間を活用し脱炭素並びに環境問題について取り組めるよう促す。
			バイオマス発電施設見学ツアー（新）	環境課	市内にあるバイオマス発電施設が3か所あるため、事業所と連携した施設見学ツアーを開催し、半田市におけるバイオマス発電の取組をPRする。
			ごみ量情報発信	環境課	毎月の一人1日当たりのごみの排出量を市報やHPで発信することで、現状を共有し、ごみ削減に向けた意識啓発を行う。
			新規広報媒体の活用	環境課 他	既存の広報媒体に加え、新たに導入される広報媒体を積極的に活用し、情報発信を行う。
4	公共施設を活用した3Rの場所づくり	公民館を活用した3R（リデュース、リユース、リサイクル）の場所づくりを行い、資源回収や生ごみ処理の説明や設備づくり、まだ使えるものと使いたい人とのマッチングをする。また、案内の多言語化・ピクトグラム化等を行い、世代や国籍に関わらず交流できる場として公民館を活用する。	3Rマッチングアプリの利用促進事業	環境課	「ジモティー」や「おいくら」とリユースに関する協定を締結し、ホームページや「家庭ごみの分別と資源の正しい出し方」冊子でPRするなど、市民のリユース活動促進に向けた啓発を行う。
			ストックヤード建設事業（新）	環境課	焼却施設跡地に建設予定（R12）のストックヤードにおいて、3Rの拠点としての機能や啓発拠点としての活用を検討する。
			地域における3R拠点づくり（新）	環境課	公民館の敷地を利用した資源回収の拠点づくりについて、自治区と協議しながら検討する。（R6調整→R7実施）